南相馬市工事等指名競争入札参加心得

(目的)

第1 南相馬市が発注する工事請負及び物品売買等に関する（以下「工事等」という。）契約に係る競争入札（以下「入札」という。）に参加しようとする者（以下「入札参加者」という。）は法令の定めるもののほか、この心得に定めるところによるものとする。

(入札保証金等)

第2 入札保証金の納付等については、別に定めるところによる。

(入札等)

第3 入札参加者は、指名通知書、南相馬市工事請負契約約款、金額抜き設計図書、仕様書、契約の方法及び入札の条件及び現場等を熟知のうえ、入札しなければならない。

2 入札参加者は、所定の日時に所定の場所で本人が出席して入札書を提出することを原則とする。なお、所定の日時に所定の場所まで到着しない場合は、原則として入札に参加することができない。

3 入札参加者は、代理人をして入札させるときは、その委任状を持参させ、所定の時刻前に入札執行者の確認を受けなければならない。

4 入札参加者又は入札参加者の代理人は、当該入札に対する他の入札参加者の代理をすることができない。

5 入札参加者は、次の各号の一に該当する者を、その事実があった後2年間は入札代理人にすることができない。

(1) 契約の履行に当たり、故意に工事等を粗雑にし、又は物件の品質若しくは数量に関して不正の行為をした者。

(2) 公正な競争の執行を妨げた者又は公正な価格を害し、若しくは不正の利益を得るために連合した者。

(3) 落札者が契約を結ぶこと、又は契約者が契約を履行することを妨げた者。

(4) 監督又は検査の実施に当たり、職員の職務の執行を妨げた者。

(5) 正当な理由がなくて契約を履行しなかった者。

(6) 前各号の一に該当する事実があった後2年を経過しない者を、契約の履行に当たり、代理人、支配人その他の使用人として使用した者。

6 入札参加者又は入札参加者の代理人は入札書を一旦提出した後は、開札の前後を問わず、書き換え又は撤回をすることができない。

(入札の辞退)

第3の2 指名を受けた者は、入札執行の完了に至るまでは、いつでも入札を辞退することができる。

2 指名を受けた者が入札を辞退するときは、その旨を次の各号に掲げるところにより申し出るものとする。

(1) 入札執行前には、入札辞退届を契約権者に直接持参し又は郵送（入札日の前日までに到達するものに限る。）により行う。

(2) 入札執行中には、入札辞退届又は入札を辞退する旨を明記した入札書を入札執行者に直接提示して行う。

3 入札を辞退した者は、これを理由として以後の指名等について不利益な取扱いを受けるものではない。

(公正な入札の確保)

第3の3 入札参加者は、私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律（昭和22年法律第54号）等に抵触する行為を行ってはならない。

2 入札参加者は、入札にあたっては競争を制限する目的で他の入札参加者と入札価格又は入札意思についていかなる相談も行わず、独自に入札価格を定めなければならない。

3 入札参加者は、落札者の決定前に他の入札参加者に対して入札価格を意図的に開示してはならない。

(入札の取りやめ等)

第4 入札参加者が連合し、又は不穏の行動をなすなどの場合において、入札を公正に執行することができないと認められるときは、当該入札参加者を入札に参加させず又は入札の執行を延期し若しくは取りやめることができる。

(無効の入札)

第5 次の各号の一に該当する入札は、無効とする。

(1) 競争入札参加の資格を有しない者のした入札。

(2) 郵便による入札。

(3) 委任状を持参しない代理人のした入札。

(4) 同一事項の入札について、他人の代理人を兼ね又は2人以上の代理をした者の入札。

(5) 記名押印を欠く入札。

(6) 金額を訂正した入札。

- (7) 誤字、脱字等により意思表示が不明瞭である入札。
- (8) 同一人が同一事項に対して2通以上の入札をし、その前後を判別することができない入札又は後発の入札。
- (9) 明らかに連合によるものと認められる入札。
- (10) その他入札に関する条件又は市において特に指定した事項に違反した入札。

(落札者の決定)

第6 入札を行った者のうち、予定価格の制限の範囲内で最低の価格をもって入札をした者を落札者とする。ただし、地方自治法施行令（以下「施行令」という。）第167条の10第1項の規定を適用する必要があると認められるときは、予定価格の制限の範囲内の価格をもって入札した他の者のうち、最低の価格をもって入札した者を落札者とする。

2 施行令第167条の10第2項の規定を適用する必要があると認められるときは、予定価格の制限の範囲内の価格で最低制限価格以上の価格をもって入札した者のうち、最低の価格をもって入札した者を落札者とする。

3 落札者となるべき同価格の入札をした者が2人以上あるときは、ただちに、当該入札をした者にくじを引かせて落札者とする。この場合において、当該入札者のうちくじを引かない者があるときは、これに代えて当該入札事務に関係のない職員にくじを引かせる。

(再度入札)

第7 開札をした場合において、各人の入札のうち予定価格の制限に達した価格の入札がないときは、ただちに再度の入札を行う。

2 前項の再入札の回数は、原則として2回とする。

(随意契約)

第8 第7の規定により再度入札を執行し、なお、予定価格の制限に達した価格の入札がない場合は、入札参加者のうち希望者から見積書を徴し、予定価格の範囲内で随意契約とすることができる。

(指名替)

第9 第7の規定により再度入札を執行し、又は第8の規定により見積書を徴してもなお落札者が決定できないときは、指名替により改めて入札を執行する。

(契約保証金等)

第10 契約保証金の納付等については、別に定めるところによる。

(契約書等の提出)

第11 契約書を提出する場合には、落札者は契約権者が指示する契約書案に住所、氏名、その他必要な事項を記載し、これに記名押印し、関係書類を添え速やかにこれを契約権者に提出しなければならない。

2 落札者が前項に規定する契約書案を速やかに提出しないときは、落札を取り消すことができる。

3 契約書の作成を要しない場合においては、落札者は、落札決定後速やかに契約権者が指示する請書を提出しなければならない。ただし、契約権者がその必要がないと認めて指示したときはこの限りでない。

(連帯保証人)

第12 南相馬市財務規則第101条第1項に規定する連帯保証人は、契約の相手方について法令の規定により別段の資格を必要とされる場合においては、これと同等以上の資格を有するものを立てなければならない。

(異議の申立)

第13 入札をした者は、入札後第3の1に規定する入札の条件等及びこの心得についての不明を理由として異議を申し立てることができない。

(共同企業体に関する事項)

第14 共同企業体が入札に参加する場合には、代表者があらかじめ他の構成員から入札に関する一切の権限を委任された委任状を提出し、入札に参加しなければならない。

(補則)

第15 この心得に疑義がある場合は、入札参加者は、その疑義について入札前において質問することができる。